

横浜市営地下鉄

安全ポケットガイド



信頼を心で運ぶ市バス・地下鉄

横浜市交通局

車内

地震が起きたら？ 車内編



グラッ
ときたら...

緊急地震速報受信、または震度5弱以上の揺れの場合にはすべての電車を緊急停止させて安全確認を行います。

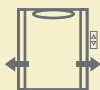
緊急地震速報受信または震度5弱以上の揺れで...



●全電車緊急停止



●駅構内に自動放送



●エレベーター最寄り階に停止



Q. 停電したらどうするのだろう？

A. 一部の照明などは使用できます。



電車には非常用バッテリーが搭載されており、最低限の照明は30分以上点灯しています。また、駅やトンネル内の照明は複数の電源を使用していることから停電しにくく、万が一停電した場合でも発電機により数時間は非常用の照明が点灯しています。

編 内 構 駅



誘導灯

▲エレベータは使わず階段へ

改札口



▲駅員の指示に従いあせらず行動

Q. トンネルが崩れたりしないの？

A. 耐震補強をしているので安心です。



Q.ちゃんと避難できるか心配だわ

A. 駅員がしっかり誘導します。



火災が発生したら？

火災
感知器

駅構内

非常放送

消火栓

初期消火

▲影響のない階段から避難

火災が発生したら？

▼初期消火

非常
通報装置

▼違う車両に避難

車内

消火器

SOS

▲係員に連絡

Q. 電車は火災に強い？

A. 車両の火災対策を進めています

地下鉄車両に関する新火災対策基準に適合させ、火災時における延焼防止を行っています。車内を燃えにくく溶けにくい素材に変え、他の車両に広がるのを防ぐために「貫通扉」を設置しています。



●貫通扉(延焼防止)

●非常通報装置(地下鉄車内)

緊急時に、各車両に設置している非常通報装置のボタンを押すと、運転士又は司令員と直接話しかできます。各車両に4か所設置しています。



台風や豪雨のときは？

●止水板

地上出入口からの浸水には、止水板を設置することで対応。板は、駅員が周辺状況やお客様の流れなどを判断しながら、取り付けます。



止水板



地下鉄

地下鉄

換気口



浸水防止機



●浸水防止機

浸水防止機は、地上にある換気口に設置されているもので、雨を感知する装置または、駅から遠隔操作によって開閉可能な仕組みになっており、換気口からの浸水を防ぎます。

●排水ポンプ

排水ポンプ設備は、トンネル内の水を公共下水道や河川へ排水する設備で、地下鉄の浸水に備えています。

排水ポンプ



暴風雨でも地下鉄は
大丈夫かしら…

雨で地下が浸水
しないよう、様々な
仕組みがあります

Q. 津波がきても大丈夫？

A. 係員が避難誘導します。

津波警報が発表された場合、電車は一旦停止し可能な限り次の駅まで走行します。しかし、浸水予想区域内（横浜駅～蒔田駅）で地震被害などにより走行できない場合には、係員が最寄駅や地上への避難口（換気所）まで誘導いたします。

困ったときは？

防犯カメラ

●防犯カメラ

駅の改札口などには防犯カメラを設置し、犯罪やいたずらの未然防止に努めています。

インターホン

●インターホン

緊急の場合は、インターホンで駅員にお知らせください。
※駅により形状が異なります。

Q. 車内で具合が悪くなったら？

▽非常通報装置を押してお知らせください

非常
通報装置
詳しくは
P.8へ

Q. 急病人をみかけたら？

▽インターホンでお知らせください

●AED
全40駅に
AEDを設置
しています

地下鉄駅構内・車内で、急病人をみかけた時は係員までお知らせください。お客さまが急病になったとき迅速に応急手当ができるよう、係員は普通救命講習を受講しています。また、AED装置は全駅に設置しています。

Q. 線路にものを落としたら？

A. インターホンなどで駅員にお知らせ下さい

線路にものを落としたときは、ホームにあるインターホンまたは改札口で駅員までお知らせください。線路内には高圧電流が流れていますので、立ち入ることは絶対におやめください。

安全のために、日夜、保守管理を行っています。

安全な運行を守り、お客さまに安心してご利用いただくため、定期的な**車両の保守点検**や**線路巡回**を行い、**事故の未然防止**に努めています。

また、運行障害が発生した時などは「**緊急対応チーム**」が出動し、原因の早期発見や的確な初期対応を行い、早期復旧に効果を上げています。

お客さまに快適で安全な運行を お届けするために



安全方針



私たちは、安全な運行の提供がお客さまへの最大のサービスであることを認識し、どなたにも安心してご利用いただける市営交通をめざします。

- 1 安全意識を高く持ち、決められたルールを深く認識し、しっかり守ります。
- 2 安全を維持し向上させていく取組を常に見直し、改善に努めます。
- 3 安全な車両・設備などの提供に努めます。
- 4 日ごろからコミュニケーションを活発にし、安全第一の職場風土を築きます。

安全教育を徹底しています。

運輸安全マネジメント研修

全職種/職種別

全職員を対象に運輸安全マネジメント研修を行っています。安全を維持するためのルール、仕組み及び具体的な取組や改善事例について理解を深め、水平展開を図ります。



※運輸安全マネジメントとは？

経営トップから現場まで一丸となり安全管理体制を構築・改善することにより安全性を向上させることを目的に平成18年に導入された制度です。

どんなときにも、安全な輸送機関をめざして

人材育成 安全訓練



運転士の技能向上

運転士

運転士の養成では国家資格である「甲種動力車操縦者運転免許」を取得するために、学科技能あわせて約9か月間の専門教育を行います。また、免許取得後もシミュレータや実際の車両を使用して、非常時や車両トラブル時の対応訓練を実施し技能向上に努めています。

異常時運転取扱訓練

運転士・駅員・司令

営業終了後に実際の車両を使って災害や車両故障など異常時を想定し、応急措置方法や対応方法の訓練を行っています。また、異常時における機器動作の検証やマニュアルの再確認などもあわせて行いながら、職員の知識・技能の向上に努めています。



グリーンライン本線上訓練▲

ワンマン運転支援訓練

駅員

電車でのトラブル発生を想定して駅員による運転士支援訓練を実施しています。訓練では、非常はしごや放送装置、ドア開放装置などを使用して不測の事態に備えています。



ドア開放コック取扱訓練▲



非常はしご設置訓練▲

異常時総合訓練

運転士・駅員・司令・保守職員

大規模地震発生から復旧までを各部門が連携して訓練を実施しています。実際に車両を脱線させ、車内のお客さまの避難誘導や脱線からの復旧、電気設備やレールなどの復旧を行います。また、この訓練には市民の皆さまにも参加していただき、より実践的な訓練となっています。



お客さま救助訓練▲



脱線車両復旧訓練▲

保守職員研修

保守職員

保守管理所のK Y（危険予知）活動推進者が中心となり、職場内K Y研修を実施しています。

ヒューマンエラーを抑止するための基本的事項を確認するとともに、グループ討議を行うことによって、安全意識の向上を図っています。



職場内K Y研修▲

津波避難誘導訓練

運転士・駅員・司令・保守職員

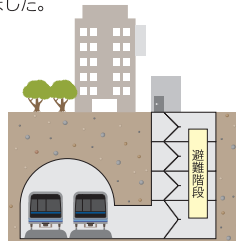
津波を想定し、駅間に停車した電車からお客さまを避難・誘導する訓練を実施しています。訓練での課題を踏まえ、2か所の換気所に避難階段を設置し避難経路として利用できるように改良するなど、訓練を通じて更なる安全を目指しています。



津波避難誘導訓練▲

換気所の避難階段

換気所（トンネル内の換気を行うための施設）のうち2か所に避難階段を設置しました。



簡易トロックでの避難訓練▲



沢渡換気所からの避難▲

お客さまの安全を確保するために

設備

情報活用



安全運行の確保

運転保安設備

ATO装置(自動列車運転装置)を導入し、ワンマン運転を支援。出発から停止まで安全運行を確保しています。また、**運転士の急病**などに対応して電車を安全に停車させるシステムなどにより安全運行の確保に取り組んでいます。

このような運転保安設備の充実に加え、**総合司令所**による的確な指示や機器類の確実な操作、保守職員による点検整備、運行に携わる職員の継続的な訓練により、電車の衝突や脱線など重大事故を未然に防いでいます。

●デッドマン装置

手動運転中に運転士が意識を失うなど異常事態が発生し、ハンドルから手を放すと自動的に電車を停止させる装置です。

●電車緊急停止装置

お客さまが線路に立ち入った場合などにボタンを押すことで、付近の電車を緊急停止させ事故を未然に防ぐ装置です。全駅のホームに設置されています。

さらなる耐震補強工事

地下鉄施設

大地震が発生した場合に、電車の運行を早期に再開させることを目的とした「さらなる耐震補強工事」を計画的に進めています。



橋脚耐震補強▲



トンネル柱耐震補強▲

大容量蓄電池の設置

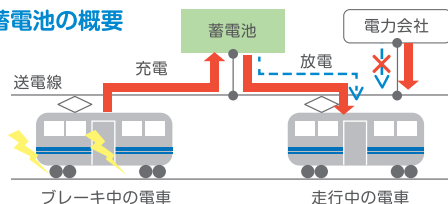
地下鉄施設

回生ブレーキにより発生した電力を蓄える大容量蓄電池を26年度に設置し、運用を開始しました。これにより、停電し電車が津波浸水予想区域の駅間に停車してしまった場合でも、蓄電池の電力を使用して次の駅まで安全かつ迅速に移動できます。

※回生ブレーキとは？

電車のモーターを発電機として電気を発生させて電車の速度を抑えるとともに、発生した電気を他の電車などで再利用できる環境にやさしいブレーキです。

大容量蓄電池の概要



降雪時の安全対策

線路

積雪によりポイント(分岐器)が動かなくならないよう、レールヒーターを導入しています。また、地上区間でレールが見えにくくなるなどの積雪があった場合には、速度を抑えて注意運転を行います。



積雪時の状況▲

可動式ホーム柵(ホームドア)

地下鉄施設

全駅に可動式ホーム柵(ホームドア)を設置しています。電車のドアと連動して開閉しており、線路への転落や電車への接触事故を防止しています。また、お客さまが電車とホームドアの間にいる場合などには、センサーが作動し再びホームドアは開きます。



ブルーラインホームドア▲

市営地下鉄の安全への取組について詳しくは…

横浜市営地下鉄の安全への取組について、さらに詳しくは横浜市交通局「安全報告書」をご覧ください。

横浜市交通局 安全報告書

検索